Question 6

中小企業が取組むべきセキュリティ対策とは

Q. ITを活用する場合、セキュリティに対してどう対応するのが望ましいか？

要旨 慢性的な人手不足の解消や働き方改革の推進、いずれについても限られた労働力を有効活用し、生産性の向上を図るには、情報技術（Information Technology：IT）の活用は不可欠と言えます。大企業と比べ、相対的に経営資源の乏しい中小企業こそ、ＩＴの活用が望まれます。しかしながら、ＩＴは、その利便性とセキュリティ上のリスクは表裏一体であることを認識しておく必要があります。特に中小企業の経営者の中には、ＩＴに対する苦手意識の強い方も多いことでしょう。以下では、こうした経営者の苦手意識に対して、身近な助言者として支援する方法を解説します。

解説

1．考え方の基本はリスクマネジメント

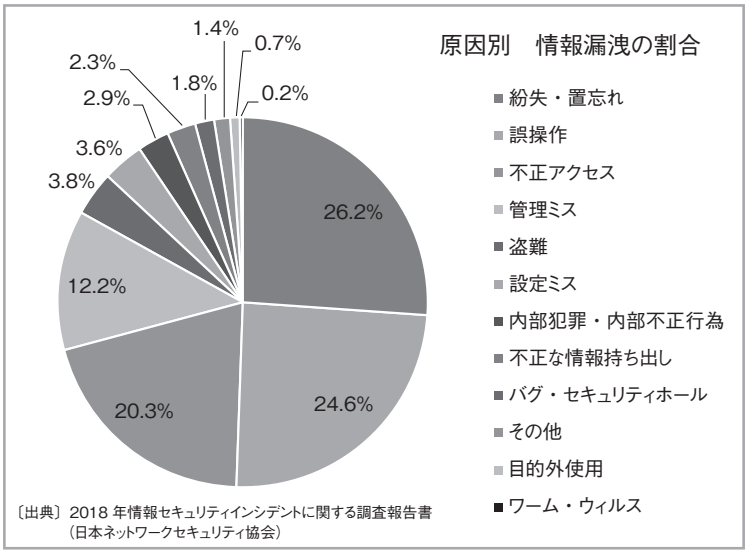
管理しなければならない情報を認識し、起こり得るリスクを想定し、リスクを回避あるいはリスク発生時の損失防止・損失削減のための対策を検討し、講ずるということに他なりません。想定されるリスクの代表的なものとして、次のようなものがあります。

- 機密情報の漏洩：顧客訪問記録や販売情報の漏洩、ＵＳＢメモリ等の記録媒体の紛失
- 個人情報の流出：顧客情報、クレジットカード・口座番号の流出
- ホームページ改ざん：不正リンク貼付け、ウィルス埋め込み
- ウィルス感染：システム停止標的型攻撃、ランサムウェア感染拡大
- IoT 機器の脆弱性の顕在化：個人情報の窃取、盗撮

2．リスク要因の多くが社内に

日本ネットワークセキュリティ協会の調査によれば、企業の情報漏洩は7割超が内部的要因とのことです。

日頃より、機密情報の外部持ち出しを禁止する、ＵＳＢメモリにはアクセス権限を設定する、機密ファイルにはパスワードを設定する、といった地道な内部対策と社内の教育指導を徹底し、担当者に任せきりにするのではなく、経営者自らが率先して取組む課題と認識すべきでしょう。



〔出典〕2018 年情報セキュリティインシデントに関する調査報告書（日本ネットワークセキュリティ協会）

セキュリティ対策によるリスクマネジメント

＜ご提案のポイント＞
・企業にとって、情報セキュリティ対策は重要な経営課題であると認識する必要があります。個人情報や顧客情報は、厳に管理しなければならない情報資産です。
・まずは、対象となる情報資産が何かを洗い出し、起こり得る被害・リスクを想定のうえ、深刻度・重要性の観点で重み付けをし、対策を検討します。
・リスクの重要性・緊急性と対策に要する費用とでマトリクスを作成し、優先順位を付け、対策を実行します。また、実行後も定期的な更新が不可欠です。

1．経営課題としての情報セキュリティ対策

現在の社会において、ＩＴは日常に深く浸透し、企業経営においても欠かせない存在となりました。一方、その利便性はセキュリティ上大きな危険性も併せ持つものであることを認識しなければなりません。情報システムの停止による機会損失や企業イメージの低下、顧客情報の漏洩による顧客からの信頼失墜など、情報セキュリティ上のリスクは企業経営に大きな影響を及ぼします。しかしながら、リスク要因と対策は多岐に亘り、どこから着手したものか、どこまで施したら良いものかと判断に迷うところです。また、情報技術の革新は日進月歩であり、リスク要因も対策もイタチごっこの状態で際限がありません。

そこで経営者として求められるのは、適切なリスクマネジメントです。

2．リスクマネジメントの展開

リスクマネジメントとは、リスクを組織的に管理し、損失等の回避または低減を図る経営管理手法です。情報セキュリティという観点では、次の手順で進めます。

①自社の情報資産（顧客情報、個人情報、販売情報等に加え、これらを含むファイルやデータベース、ＵＳＢメモリ等のメディア、紙媒体も含む）が何かを洗い出し、「機密性」「完全性」「可用性」に関するリスクを特定する。

②特定したリスクを「発生確率」及び「顕在化した場合の影響度」という二つの軸で、企業にとっての重要度を算定する。定量評価が困難であれば、「大」「中」「小」といった定性評価での区分でも可。合わせて、対策を検討し、費用を見積る。

③リスクの重要性・緊急性と対策に要する費用とでマトリクスを作成し、優先順位を付け、対策を実行する。

セキュリティ対策に万全という言葉はありません。対策の実行後も、会社や社会状況の変化、新たな脅威の発生などに応じて、定期的な見直しが不可欠です。

また、情報セキュリティ対策、というとリスク要因は外部からの侵入や攻撃を連想する人も多いと思いますが、実は社内の操作ミス、内部の不正行為といった内部的要因が７割超と言われています。日頃から社内の風紀を正すことが実は一番の対策かもしれません。